

事業実績報告書

(※市ホームページに掲載予定ですので、できる限りわかりやすく記載してください。)

団体名 中山台コミュニティ

1 事業名	宝塚市制 70 周年記念中山台コミュニティ防災訓練
2 事業の内容（実施日、場所、回数、内容、参加者数などを含めて具体的に記入してください。）	日本各地で頻発している地震、大型台風による土砂災害、また、今後 30 年以内に 70～80%の確率で発生が予測されている南海トラフ地震、さまざまな自然災害が従来以上に脅威となってきた。 そこで、コロナ後の防災訓練（避難所運営訓練も兼ねる）を、中山台コミュニティの防災委員会が中心になって、10月13日（日）に実施した。 場所は指定避難所かつ自主避難所である中山五月台中学校の体育館。対象者は、基本的に全住民であるが、特に自治会役員・幹事、老人クラブ及びコミュニティ運営委員を中心に76名が参加した。まずコミュニティ松下会長の「コミュニティのこれからの防災対応」の話、山崎市長の挨拶でスタートし、避難者の受付名簿作成訓練から開始した。 ・段ボールベッドの組立てとテント設営・消防による簡易担架でのけが人の搬送、心肺蘇生法の実演と AED 講習・市総合防災課による「在宅避難と TKB（トイレ・キッチン・ベッド）」講座。この講座では、体育館の空調（冬場の暖房）はどうなるのか等、予定時間をオーバーする程、避難所等に関する活発な質疑応答があった。 また、ペット同行避難の訓練と講習も中学校の雨天練習場で実施。参加は大型犬を含む犬3頭とその飼い主で、県動物愛護センターの職員（獣医）から避難時に必要な犬のストレス対応やしつけ訓練、準備品等についての講座があり、近年義務化されているマイクロチップの読取りと犬の写真入り受付表作成を実施した。 更に、この地区に合った内容の「中山台コミュニティ防災手帳（地震編）」を編纂・出版し、参加者に配布した。この防災手帳は、A5版20頁で、多くの防災情報の中から、中山台地区に適合する地震情報を選択して、1冊にまとめたものであり、万が一に備えて日頃からの準備をするためのガイドとしてより多くの配布を予定。 最後に、非常用水源（耐震性貯水槽 100 t）からの水出し訓練を消防署、水道局の協力を得て実施した。

3 市制 70 周年をお祝いした内容

宝塚市制 70 周年の節目の年、中山台コミュニティは 50 年余の歩みとなった。開発当初の中山台地区の航空写真や当時の阪急宝塚駅及びその周辺の賑わいを感じる大きな写真やパネルを会場に展示した。その中には、30 年前の阪神淡路大震災の写真もあるが、その教訓を生かし、それを乗り越え、住みよい、安心なまちづくりの一助とするべく防災訓練を、70 周年の記念として実施できたことは地域にとって大変役に立つことであり、今後この活動が毎年続くよう努力したい。

また、ロゴマーク入りの「中山台コミュニティ防災手帳（地震編）」は、市制 70 周年記念事業として編纂したものであり、住みよい安全なまちづくりの継続のために、70 周年を記念すると共に、今後広く利用されることを願うものである。

4 事業の効果・成果

コロナ禍を経て、5 年ぶりの防災訓練の実施により、中山台コミュニティ（役員・幹事、各自治会、老人クラブ、管理組及び災害対策委員会等）の運営担当者一丸となって計画から実施までの協力体制を再構築した。

今回の防災訓練は、避難所の運営訓練に重点を置いて実施したが、一般の住民も地域広報誌「コミュニティ 11」の記事、チラシ、当日朝の「すみれ防災スピーカー」のお知らせ等で知って、多くの参加があった。特に、体験型の段ボールベッドの組立てやテントの設営、消防による簡易担架や心肺蘇生・AED 講習にも積極的に参加されていた。また、市総合防災課の「ぼうさい出前講座」は、在宅避難・避難所の TKB の具体的な内容の講座で、多くの質疑応答があり、行政との情報共有という意味でも有意義であった。

また、この防災訓練に参加することで、住民の防災意識の向上とともに、コロナ禍、高齢化で希薄になりがちな住民相互の繋がりに少しは貢献できたと考える。

5 実施した安全対策

今回、会場から遠いコミュニティの住民が参加しやすくするために、自家用車での参加を可能とし、学校長の許可を得て校構内に駐車場を確保した。また、参加団体の車も含めて、入構車の整理・案内の係 2 名を配置して安全にも配慮した。

また、同時に実施した「ペット同行避難」（犬 3 頭）は、体育館の隣校舎一階の雨天練習場を会場として、体育館会場とは分離して、犬と一般参加者との混乱が起きないように配慮した。

更に、社会福祉協議会の「ボランティア行事用保険」（イベント保険）に加入して、万が一の事態にも備えたが、怪我等の事故もなく無事終了となった。